勝ちたい勝たせて

比例の議席なくても 希望の党に行っても

鷲尾英一郎氏のイーグル会 弥彦で西蒲地区総会と懇親

県民党としての再出発が 党代表から希望の党にと言われた これは迷う 迷わせて 心底納得できる結論を

鷲尾英一郎衆院議員の後援組織、イーグル会の西蒲地区総会、懇親会が二十九日午後六時半から弥彦村弥彦、四季の宿みのやで開かれ、弥彦村と新潟市西蒲区の支持者約百七十人が出席し、総選挙の必勝を期して親睦を深めた。民進党の事実上の解党に伴い、総選挙では希望の党公認か、無所属での出馬か、表明が期待されたが、鷲尾衆院議員は「もうちょっと悩ませていただけないでしょうか」と結論を保留し、「比例の議席がなくても勝たせていただきたいし、希望の党に行っても、そのときは文句を言わずにどうか応援していただきたい」と、十月二十二日の衆院選に向けて支援を訴えた。

総会、懇親会は以前から計画されていたが、衆議院解散に伴い、事実上の総決起大会に。開会あいさつでは、川村保実行委員長が、前回の衆院選では小選挙区で百二票差で敗れたことにふれて「まずは百二票差を一千倍にして圧倒的な勝利で国会に送り出そうではありませんか」と呼びかけた。

引き続きパネルディスカッションを行い、鷲尾衆院議員と小林豊彦弥彦村長、篠田昭新潟市長、重川隆廣県議が子育て、教育、医療、介護などについて意見を交換した。

六時二十五分から懇親会に移り、小林村長が「首長としてはいろいろあるのであまり言えないが、気持ちのうえでは鷲尾先生大好きなのでぜひ頑張ってほしい」とあいさつ。JP労組信越地方本部の河内浩一執行委員長の音頭で乾杯した。

鷲尾衆院議員はステージの出席者と記念撮影をしたあと、各テーブルを回って支持者にあいさつ。支持者の関心は民進党の事実上の解党に伴い、鷲尾衆院議員が希望の党公認で出馬するか、あるいは無所属での出馬を選択するか。

各テーブルでは支持者から「どっちに行きますか」と次々と質問されたが、鷲尾衆院議員は「どっちがいいと思いますか」「いろいろ考えています」などと答えた。

八時四十五分ごろ、鷲尾衆院議員がステージでお礼のあいさつに登壇。民進党の事実上の解党について「県連代表になってから県民党として再出発しようと、昨年の県知事選の反省を踏まえて、県民の問題に焦点を当て、それをしっかり国政に届ける、少なくとも県民から信頼されるように徹底的に活動してきた。県民党として再出発する。これはきわめて重い言葉。そこに希望の党の方に出てくれと、党の代表から言われた。これは迷う。迷わせてほしい」と述べた。

そのうえで「きょうの会場からいろいろ声があった。『希望の党に行かないでほしい』という意見から『希望の党から出るべきだ』という意見から、真っ向から対立している。これを一緒に考えるのはなかなか難しい。どちらにせよ勝ちたいし、勝てる可能性を探るのも当然大事だと思う。忘れてはいけないのは、選挙戦で皆さんに訴えたときになにがしか心の中にやましいものがあってはいけない。少なくとも、私が心の底から納得できる結論を持って、皆さんに私の決断を伝えさせていただきたい」と現在の心境を述べた。

続けて「そのように思っていて、もうちょっと悩ませていただけないでしょうか。すみません。このあいさつの中で結論は言えませんので申しわけありません」と話すと、支持者に大受けで、盛大な拍手が起きた。

最後は「私は三回が比例復活。四回選挙をやって一勝三敗だから次は何としても勝ちたい。比例の議席がなくても勝たせていただきたいし、希望の党に行ってもそのときは文句を言わずにどうか応援していただきたい。

小林村長、篠田市長、重川県議とパネルディスカッション　約百七十人が出席した西蒲地区総会

「どういう決断になろうとも絶大なるご支持をお願い申し上げたい」と述べる鷲尾衆院議員

各テーブルを回って支持者にあいさつする鷲尾衆院議員

あいさつする小林村長

衆院選の必勝を期して頑張ろうコール